

青森大学薬学部 同窓会誌

第三号

2023年10月1日発行
発行：青森大学薬学部
〒030-0943
青森県青森市幸畑2-3-1
青森大学経営戦略局
TEL:017(738)2001



1. 学長メッセージ
2. 同窓会会長挨拶
3. 学部長挨拶
4. 新任教員紹介
5. 地域活動のお知らせ
6. 卒業生がんばってます
7. 令和4年度入学式
8. 第3回オープンキャンパス
9. 薬学教育センターだより
10. 薬学部新教材「Physico」紹介

特集

夢を抱き挑戦し、薬局経営者になって

株式会社フォー・サン 代表取締役 鈴木 保 (1期生)

学長メッセージ

学長 澁谷泰秀



今年の4月から青森大学の学長を務めております澁谷と申します。同窓生の皆様におかれましては、実習等で薬学部の教育に格段のご協力を頂きまして厚く御礼申し上げます。本学の学生にとって、薬局や病院における実習において先輩方から直接ご指導を受けられることは、通常の学修を超えて将来の自分の姿をイメージできる貴重な体験となっております。青森県唯一の薬学部を有する大学として誇りをもって薬学教育を進めていく所存でございますので、同窓生として本学の薬学教育に関するアドバイス等がございましたら、メール等で直接学長までお送りいただきますようお願い申し上げます。教育の改善に役立てたいと思います。

薬学部では、同窓生の皆様が在学されていた頃とは比較にならないほど教員と学生の距離が近くなっております。昨年度、薬学教育センターを新たに設置し、今年度からは、学長指示として「取り残される学生がいない教育の展開」をお願いしており、リメディアル教育や学生相談等に格段の進歩があると確信しております。本学薬学部は青森地域にとって、なくてはならない学部です。地域のニーズにこたえるべく、これからも確かな研究に基づいた実践的教育を進めてまいります。

本学に薬学部があることは、薬剤師不足の青森県に貴重な薬剤師を送り出すことができることだけではなく、大学全体の研究力の向上にも大きく貢献しております。大学の研究力の指標となる科学研究費補助金の採択額は、青森県内の私立大学の中でトップに位置し、今年度は全国591校の私立大学等の中で304位と健闘しております。

この科学研究費補助金の他に、薬学部教授で免疫学の権威である瀬谷先生の研究は、数年前に獲得したAMED（約3億円）の採択に加えて今年度は感染症の免疫研究で1億円以上の研究費を獲得しております。現在、瀬谷先生が研究開発している非炎症の免疫アジュバンドARNAXは、新薬候補として創薬研究の流れに沿って進められております。青森大学薬学部から新薬が開発されることは、夢ではなく現実味をおびた研究として進められております。

現在、大学では「青森大学だより」という新聞を刊行しております。本学ホームページに掲載されております。新聞には、薬学部の活躍、特に学生の様々な活躍が掲載されております。また、ホームページには薬学部の近況等も掲載されておりますので、母校の躍進ぶりに触れて頂ければ幸いです。

同窓会会長挨拶

薬学部同窓会 会長 千葉 佳友



コロナ後の医療提供体制について

薬学部同窓の皆様には、ますます清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より、同窓会活動に対して深いご理解と多大なご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、日本で最初となる新型コロナウイルス感染症患者が確認されたのが、令和2年1月であり、気が付けば3年以上の月日が経過しました。この間、新型コロナウイルスは幾度となく変異しながら、感染拡大と縮小を繰り返し、私たちの生活や経済だけでなく、医療提供体制にも大きな影響を及ぼしてきました。

最近、子どもをもつ親として感じることは、子どもが発熱した際に、すぐに受診できる医療機関が少なくなったということです。コロナ禍以前は、子どもが発熱しても、すぐに近所の小児科に受診させることができていました。しかし、コロナ禍以降、現在も、予約制をとる医療機関が多くあり、子どもを受診させたくても、すぐに診てくれる医療機関を探すことに苦労しています。

特に、青森県では、少子高齢化や人口減少の影響から、県内の診療所の数は減少傾向にあり、また医師の地域偏在も顕著となっています。そのため、人々ができる限り住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、その地域にふさわしいバランスのとれた医療提供体制を構築していくことが課題となっています。

そうした中で、近年、情報通信技術の発展並びに地域の医療提供体制及び医療ニーズの変化に伴って、オンライン診療その他遠隔医療（以下、オンライン診療等）の需要が高まってきています。最近では、医療資源が限られており、受診機会が十分に確保されていない、いわゆるへき地において、特例的に、医師が常駐しないオンライン診療のための診療所の開設が認められるようになる等、国でもオンライン診療等の推進に舵を切り始めています。

当然のことながら、オンライン診療等が普及していくと、地域医療の中で薬局に求められることも変わってきます。オンライン診療等では、薬の配達と患者の経過観察が重要になる訳ですが、薬の配達は勿論、限られた医療資源の中では、患者の経過観察についても、継続的な服薬指導が義務付けられている薬剤師が担うのが効率的です。

近年、薬局経営が厳しさを増す中で、地域からのニーズの変化に、いかに迅速に対応していけるかが、今後の薬局の生き残り戦略上、重要となってくるのではないのでしょうか。

最後になりますが、今回の同窓会誌の特集では、高い志を持って、薬局経営を行う同窓生を紹介しています。皆様の今後の活動において、少しでも参考になれば幸いです。

近況報告

薬学部長 水野 憲一



薬学部同窓の皆様におかれましては、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

青森大学薬学部同窓会誌第三号をお届けするにあたりご挨拶申し上げます。

今年度より澁谷泰秀 学長が新しく就任し、青森大学も新たなステージを迎えました。澁谷学長のリーダーシップのもと、青森県唯一の学部として薬学部も邁進して参ります。

薬学部の近況ですが、薬理病態系の服部智久先生、および実務家教員の荒川敏洋先生の2名が着任しました。服部先生は製薬企業出身、荒川先生は病院や保健所などの実務経験に加え、お二人とも薬学部での教育経験もあります。お二人が青森大学薬学部で新しい風を吹き込んでくれることを期待しています。2019年末より新型コロナウイルス感染症が流行したことを受け、学部での親睦会や忘年会などが全く行われていませんでしたが、8月に親睦会が開催されました。思い起こすと実に4、5年ぶりではないでしょうか。その間、新任の先生に対する新歓会や退職される先生の送別会も行われずにいました。2020年度から新任として着任した教員数は15名と、半分近くが新しい先生になっているのも驚きです。先生方の交流と団結はこれからの薬学部を支えていくにはなくてはならないものです。

また、薬学教育センターの活動が昨年度より活発化していることは、前号でご報告済みですが、さらに新しいメンバーが増えました。薬学教育センター専任職員に加え、専任教員として立崎哲也さんが着任しました。立崎さんには、主に低学年の学生の学習サポートをお願いしています。新任紹介でも触れますが、薬学部出身で薬剤師の免許を取得していながらダンス指導者というユニークな経歴であり、新入生にも親しみやすさから好評です。

前号でも紹介しました新入生を対象にした合宿、スタートアップキャンプもむつキャンパスで無事開催されました。4年ぶりの開催となりましたが、早期に新入生同士で親睦を図り、スムーズに大学生活を送るためには効果的であると感じました。

学生募集においてオープンキャンパスの参加者は数年前に比べると増加傾向にあり、薬学に興味を持ってくれる学生がますます増えることを期待しています。より一層薬剤師育成に向けた教育に邁進していく所存です。

同窓会の皆様におかれましても、今後とも何卒青森大学薬学部へのご支援を賜りたく、改めてお願い申し上げます。

最後になりましたが。同窓会のみなさまのご健康とご活躍を祈念致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

新任教員紹介



薬理学研究室 教授 服部智久

本年度4月より赴任しました。

専門は、「薬理学」ですが世の中には本当に多くの病気がございます。その様々な病気の成り立ちの理解や、お薬の使い方となるべくわかりやすく学生にお伝えするのが私の役割です。この「わかりやすい」を信条にして、多くの学生さんが薬理学を楽しんで学んでいただけるよう努めます。

私は、長年企業で新薬の開発に携わっておりましたが、ここ十数年は、「ストレスや抗がん剤と食欲に関する研究」に取り組んでいます。我々はストレスがかかると食欲が無くなったり、逆に食欲が増したりします。また、化学療法におけ

る抗がん剤の使用で食欲が無くなり、痩せていく患者さんが多くいらっしゃいます。

なぜ、このような食欲の異常がみられるのか。それを食欲増進ホルモンである「グレリン」の体内変化によって説明ができる研究を行ってきました。その過程で、食欲不振で苦しむ多くの患者さんに対して、グレリンを増加させ、食欲を回復させる手立てをいくつか提案してきました。「空腹こそ、最高のスパイス」という言葉もございます。この研究をより一層発展させ、青森大学から、全国に発信できるよう努めてたいと思っております。

臨床薬学研究室

准教授 荒川敏洋



2023年5月より赴任しました。

私は1989年に岐阜薬科大学を卒業後、約30年間に渡る病院等での勤務を経て、2020年7月に姫路獨協大学薬学部 医薬品情報学研究室の講師、更に2021年7月には名古屋市役所健康福祉局に入庁し、新型コロナウイルス感染症対策室の医療調整グループ、環境薬務行政に携わって参りました。これらの経験を後進育成に役立てたいという思いがあり、縁あって本学に赴任することになりました。

本研究室では後発医薬品の情報開示に関する研究をはじめ、パンデミック下での医療の脆弱性や急激な少子高齢化に関

連した変化や臨床現場で遭遇する様々な問題をテーマとし、最終的に臨床現場に還元することを目標としています。

教育目標として、薬剤師が臨床現場における問題を自ら見つけ解決する能力を身に付け、臨床現場において第一線の薬剤師として活躍できる人材育成を行いたいと考えています。

そのためにも、同窓会の皆様には今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

地域貢献活動

8月19日実施「救え！シナイモツゴ 又八沼水抜きプロジェクト」に参加！

夏休み期間中の8月2日から、絶滅の危機に瀕している青森市指定文化財「又八沼に生息するシナイモツゴ」の生息環境の改善を図ることを目的とした沼の水抜きが行われ、外来魚として駆除したモツゴの利活用が検討されました。

青森大学薬学部として、漢方薬学研究室の小松一教授達が、駆除したモツゴを食材として活用しようとするプロジェクトに参加しました。

モツゴは全長8cmほどの小魚ですので、南蛮漬けとして料理し、前日に調製した七味唐辛子をかけて参加者に提供しました。モツゴの内臓を取り除き、水洗し、片栗粉をつけて油で揚げ、皿に盛り付けたのち、七味唐辛子をふりかけて出来上がりです。



臭みもなく普通に美味しい、七味唐辛子が特に美味しいので、是非商品化して欲しいとの好意的な感想をいただきました。



なお、七味唐辛子は薬膳料理実習の一環として、毎年6年生の特論VIIIで調製しています。

みなさんでおいしくいただきました。これもSDGs



水を抜いた又八沼全景

卒業生元気に頑張ってます！

ハッピードラッグ勤務

さる、7月8日土曜日青森市のリンクステーション（文化会館）にて、ハッピードラッグ主催の「あおもり健康博覧会」に本学薬学部としてポスター発表しました。

その際に、ハッピードラッグに就職した卒業生も、野菜摂取量が手のひら測定できる、健康チェック（ベジチェック）コーナーで来場者の皆さんの野菜の過不足判定を担当していました。

皆さん、生き生きとしており、職場でのコミュニケーションも良好で、とても働きやすく楽しんでいる様子を聞かせていただきました。



左から津川葵さん（R3）（五所川原広田店）、去年卒高橋りく（R5）さん（弘前土手町店）、山口斗夢さん（R5）（佃南店）



在学中は試験勉強で四苦八苦していた姿しか思い浮かびませんが、社会で活躍している卒業生を見ることができました。

大学訪問してくれました！

株式会社ウィーズ勤務



左から、岡島未槻さん（R4）、對馬蓮さん（R3）

7月13日木曜日に、大学を訪問しました。

現在、對馬さんは千葉県、岡島さんは大分県での薬局に勤務しており、過去には北海道、岐阜などと広域に勤務され、所謂、総合職薬剤師としてのスキルに磨きをかけています。

今回は、本学の学生にウィーズに勤務をしてみませんか？とのお誘いのために、来学されました。

多様化する薬剤師業務に応じて、ワークライフバランスを取り入れ、今後の薬局のあるべき姿の一端を聞かせていただきました。2人の生き生きとした姿がまぶしくも見えるほどの2人でした。

今後の活躍を期待するばかりです。

入学おめでとうございます

令和5年度の入学式が4月2日挙行されました。

全学部入学生322人のうち、薬学部42名の新生を迎えることができました。



植木学科長の入学生呼名のあと、澁谷新学長により入学が許可されました。期待と不安を胸に、長いようで短い6年間のスタート切りました。

すでに前期試験は終了し試験結果に一喜一憂する日々ではありますが、後期授業もスタートし気持ち新たに学生生活を謳歌してもらいたいものです。

引き続き、教職員一同情熱を注いで学力の向上を目指して参ります。

引き続き、教職員一同情熱を注いで学力の向上を目指して参ります。



第3回オープンキャンパス開催！

8月6日(日曜日)青森キャンパス5号館で開催されました。

薬学部は29名(高校3年生12名、高校2年生10名、高校1年生5名、既卒その他2名)でコロナ禍以降最も多い参加者数でした。

今回の企画は体験授業と称して、小松一先生

(生薬学)による「薬草茶を作ってみよう！」

では保護者の方々も一緒に参加し、薬草茶の香りや味を楽しんでいました。

なお、使用した薬草は、「薄荷(ハッカ)、菊花、紫蘇葉、忍冬(スイカズラ)」。多くの参加者の皆様は、精神安定、気分爽快、頭・目・喉をスッキリしたことでしょう。



体験授業でした。

また、福井雅之先生(免疫学)による「茶葉からのカフェインの抽出」では、簡単な加熱操作で茶葉の周囲から析出した結晶が、冬の降霜のような針状結晶が析出し初めて見るカフェインの結晶に驚いていました。

スチューデントアシスタントの皆さんにお手伝いいただき、とても賑やかで楽しい雰囲気での体験授業でした。

薬学教育センターだより

薬学教育センター
Pharmaceutical Education Center

OPEN

新職員の紹介

4月からセンター職員（非常勤）として、立崎哲也さんが赴任されました。先生には高校までの物理・化学・生物の基礎化学の復習を担当してもらいます。すでに多くの1,2年生が補習、個別指導を受けています。立崎先生は薬剤師免許も取得しており、基礎科目のどこが薬学専門科目の理解に大事なのか要点をしっかりと押さえて指導してくれます。1,2年生の皆さんは、物理・化学・生物の基礎科目をしっかりと身につけ、薬学専門科目へのステップアップへ繋げていきましょう。



立崎先生は、毎週火曜日と木曜日の15:30から薬学教育センターで学生の訪問を待っています。

大学教員とはひと味違った説明と親しみやすい性格を持ち、多くの学生達が弱点補強のために活用しております。これからも基礎科目の補強に個別指導をどんどん利用してください。

薬学部新教材「Physiko」紹介

近年、薬物療法中心の治療が必要な疾患の増加や分子標的薬など新しい効果や副作用の発現の可能性のある医薬品が増加してきました。そのため薬剤師による適切なモニタリングの実施は必須となっています。

そのために薬学生としてフィジカルアセスメントを学ぶことは重要になってきており、本年度導入したフィジカルアセスメントモデル「Physiko（フィジコ）」は、バイタルサインチェックの実践として6年生を対象に演習用として使用を開始しました。



フィジコは、瞳孔・血圧・心音・呼吸音・腸音を正常・異常の状態に設定でき、個々の学生がアセスメントを行い患者状況の把握を体感し、アセスメント技術の向上を図り、モニタリングによる医薬品の有効性や副作用の確認ができる能力を養うことができます。

フィジコ実習を通して学んだ技術が、卒業後それぞれの施設で患者とふれあい、会話の中でバイタルサインチェックができ、チーム医療の中で発揮できる薬剤師として活躍してくれることでしょう。



特集

夢を抱き挑戦し、薬局経営者になって

この度、青森大学薬学部の卒業生 鈴木 保（すずき たもつ）先生が、自身が経営される薬局としては3店舗目となる「けい福薬局久慈店」を開設されることとなりました。

今回、鈴木先生に、大学時代や薬局開設の際の苦労話等について、お話を伺いました。



鈴木 保

すずき たもつ

青森大学薬学部卒（1期生）。岩手県で教師を11年務めた後、平成16年4月に本学薬学部に入學。平成20年3月に、首席で卒業し、優れた学生に送られる文部科学大臣賞も受賞。卒業後は、株式会社フォー・サンを設立し、薬局経営を行っている。

— 本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。こうしてお会いするのは、本当に久しぶりですね。

鈴木先生

結婚式に呼んでいただいた時以来だよ。相変わらず活躍しているようで、嬉しいです。

— いやいや、保さんも青森大学薬学部の1期生として、卒業してからわりとすぐに薬局を開設されていたので、間違いなく青森大学薬学部の卒業生としては、第1号の

薬局経営者ですよ。そして今回、3店舗目の薬局開設ということで、本当におめでとうございます。

鈴木先生

今日は、わざわざ来てくれるということだったので、開設前の薬局を見てもらいたくて、あえてこちらに来てもらいました。

— ありがとうございます。撮らせていただいた写真は、同窓会誌に使わせていただきます。



写真1（左）。「けい福薬局久慈店」

令和5年9月21日オープン予定。八戸市内中心部から車で約50分と、八戸市からも通勤可能。年齢・経験不問で、薬剤師を募集中。

写真2（下）。「長寿鈴」

鈴木先生のお母さまによる手づくりの鈴。来局者は無料で貰うことができる。



— 思い返してみると、保さんは在学中から自分の薬局を開業したいとおっしゃって、青森大学の経営学部の授業も聴講していましたよね。自分で薬局を開業したいと思ったきっかけは何だったんですか。

鈴木先生

在学中に色々な本を読んでいるうちに、薬局開設に興味を持つようになって、「自分でやってみたい」と思ったことが始まりだったかな。あと、在学中に和田先生に「君は独立した方がいい。人に使われないで。」と言っていたことがあって、その時に自分のタイプのにも合っているのかな、と感じたんですよね。また、当時から木村隆次先生への憧れというのがあって、先生の講義が終わった後でよく先生をつかまえては様々なことを聞き、学ぶことが出来たこともよかったですね。

さらには、四年生の時に行った薬局実習で、実習先の先生から薬局の開業についても具体的に教えてもらったことも大きかったです。

こうしてたくさんの方から影響を受け、お世話になったことで、2店舗目の薬局も開設出来ることとなっているので、青森大学や先生方には感謝しかありません。

— 和田先生、懐かしいですね(笑)。この同窓会誌はぜひ和田先生にも読んでいただきたいですね。

在学中に聴講していた経営学部の講義は、今の薬局経営に何か活かしているんですか。

鈴木先生

「単位はいらないので、後ろの方で講義を聴講させて下さい。」ってお願いして、薬学部の講義が空いている時に聴講させてもらっていましたね。失礼な話、あまり熱心に聞いている学生は少なく、なぜかよく指名されました(笑)。その関係もあり、経営学部の教授の部屋で経営を教えるということもありました。自分の薬局の経営計画、経営戦略を考えて経営案を作り、教授の部屋でみてもらったことがあるんですが、

「これは絵に描いた餅だ」と全否定されましたね(笑)。

それ以降は、より具体的に数字やエビデンスをもって経営計画を立てるようにしています。また、独学ではなく本をよく読んで学び続けています。なので、その基礎を築いてくれた経営学部の教授にも感謝しています。

— なんかもう、保さんの姿勢と言いますか、本気さというか、ぼーっと学生生活を送っていた私とは違って、本当に凄いなあ、というのは学生時代にそばで見ている感じでしたね(笑)。

鈴木先生

やっぱり妻や子供がいる中で、学生になった訳ですから、当時は相当な覚悟を持っていましたね(笑)。

— そんな保さんにとって、学生時代に苦労したことは何だったんですか。

鈴木先生

先ほども少し言いましたが、青森大学に入る前は、岩手で11年間教師をしていて、34歳で青森大学に入学した訳ですからね。入学当初は、周りが高校卒業後の十代の方々という中で、きっと自分は一人で授業を受け一人で帰っていく、という四年間を送るんだろうなと思っていました(笑)。ですが、とにかく周りの人に恵まれ、一緒に講義を受けたりご飯を食べたり出来たのは、とてもありがたかったですね。

苦労したことといえば、経済的なことでした。自分で決めた道なので、親には頼りたくなかったのも、奨学金制度を使いながら極力お金を使わないように生活していました。なるべく車を使わずに自転車を使ったり、「スーパーふじわら」(今もあるのかな?)で日曜日の早朝にたまご1パック30円、キャベツ1玉30円に並んだりしました。

また、子どもを連れての外出もお金が

かからないところやイベントに参加していました。今となっては、それはそれでいい思い出ですが（笑）。

— 卵1パック30円って、今では考えられない値段ですね。卵の値段は値上がりしていますが、「スーパーふじわら」は、今でもまだちゃんとありますよ。同窓会誌には写真を載せておきますね（笑）。



写真3. 鈴木先生が通った「スーパーふじわら」

— 今度は、薬局を開設された時の話をお聞きしたいのですが、いざ薬局を開設してみて、苦労したことは何だったんですか。

鈴木先生

大学を卒業して一年後に開業しましたので、薬剤師としても経営者としても未熟な中でのスタートでしたね。ノウハウを支援して下さる方はいたものの、未熟さ故に全て体当たりで進んでいたと思います。当時は、とにかく必死だったので、一番の苦労といえば、すぐに思いつくものはありませんが、医薬品の供給問題や薬剤師の確保、コロナ治療薬、薬局DXなど、今でも絶えず考えていることはある状態です。雇われて働いていた時は、割とONとOFFがはっきりしている印象がありましたが、経営者になってからは、常に仕事に生かそうと意識し続けている感じがします。

— なるほど。では、逆に薬局を開設してよかったと思うことは何ですか。

鈴木先生

まず一番は、自分の作りたいものが作れること。例えば、弊社は「患者さんがまた来たくなるような薬局づくり」を、どの薬局でも共通理解としてあり、お陰様で患者さんも処方箋を持たずとも薬局に寄ってきています。会議等において会社の方向性を確認しながら、作りたい薬局が出来ていく感触は何とも言えず感激します。

また、個人的には教員の経験を生かし、地域の学校薬剤師を務めたり、地域のスポーツの監督を務めたり出来たこともコミュニティの一端を担っていて、良かったと思えることの一つです。



写真4. 最初に開設した「エイシン薬局」

— 貴重なお話、ありがとうございました。大変、勉強になりました。せっかくですので、薬局開設を考えている同窓生に、何かメッセージがあればお願いします。

鈴木先生

経営という観点からは、薬局業界はより厳しさを増していくと思われれます。また、薬局に求められることもより高くなることや流通・供給体制の厳しさ、薬局DXへの対応などから、調剤薬局も二極化されてくるかもしれません。それでも、私は本当に

やって良かったと深く心から思っているの
で、薬局開設を本気で考えている人にはお
勧めします。学ぶ意欲と人脈と融資と強い
「覚悟」があれば実現できると思います。

— ありがとうございます。あつという間
に時間となってしまうましたが、最後に、
青森大学の先生にメッセージがあれば願
いします。

鈴木先生

今も青森大学に在籍されていらっしゃる
先生ということであれば、同じ岩手県出身
の上家先生に、ということをお願いします。

上家先生は、学生に近い存在で思いやり
があり、とても好きな先生の一人でした。

以前、長男のオープンキャンパスで青森
大学にお邪魔した時に、久しぶりにお会い
出来て嬉しかったです。長男は岩手医科大
学に行きましたが、二男（高2）も薬学部
を志しているようですので、お世話になる
際にはどうぞよろしくお願い致します。

先生もどうぞそのまま変わらずに愛され
キャラでいて下さい。

— 本日は長時間にわたり、どうもありが
とうございました。



写真5. 鈴木先生（右）と千葉同窓会長（左）

interviewer

千葉 佳友（ちば よしとも）

旧姓：塩崎。青森大学薬学部卒（1期）。
大学卒業後、青森県職員に採用され、現在
は、青森県庁医療薬務課に勤務。

上家先生からのメッセージ



鈴木さんが薬局経営で成功されて
いると聞き、大学教員として誇ら
しく思います。

当時、私は鈴木さんの学年で初めて
担当する科目が分子生物学（松澤先生と分
担担当）と薬学英语で、とても緊張してい
たことを思い出します。年齢が近く、地元
が同じなので親近感をもって見ていて、勉
強する姿から教わることが多かったです。
これからも薬局経営がんばってください。
息子さんがよい後継者になりそうですね。

准教授 上家 勝芳（かみいえ かつよし）

農学博士。青森大学に薬学部が開設した
平成16年から同学部に在籍。日本分子生
物学会、日本生化学会、日本農芸化学会
に所属。

同窓生からのメッセージ



保さん、ご無沙汰しております。
丹代です。3店舗目の薬局
開設、本当におめでとうござい
ます！

1店舗だけでも経営・管理するのは大
変なのに、3店舗目とは……。ウチに
は完全にキャパオーバーです！もはやリ
スペクトしかないっす！

今後の更なるご健勝とご活躍を心から
お祈り申し上げます！

薬剤師 丹代 由紀彦（たんだい ゆきひこ）

青森大学薬学部卒（1期）。
大学卒業後、有限会社つくだ調剤薬局に
就職。現在、有限会社つくだ調剤薬局浜
館店の管理者。